

2023 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじん あったね	
団体名	特定非営利活動法人 Attane	
代表者名	理事長 桑島 章子	
連絡先	住所	岡山県岡山市北区庭瀬 2-1-202
	TEL	086-728-5811
	E-mail	info@npo-attane.com
	URL	https://npo-attane.com/
設立年（西暦）	2011 年	
助成活動名	不登校や発達障害など何らかの困難を抱える子どもや親の居場所・相談支援	
助成額	1,500,000 円	
活動内容	目的	<p>目的①療育手帳等受給基準に満たない子どもへの支援 発達特性が療育手帳受給基準の子ども達は、利用できる支援が少なく、また公的居場所(登校支援室や適応指導教室等)など、学びたくても登校が難しいことが多い。フリースクールもあるが、生活困窮世帯には費用負担が大きい。その為、手帳を持っていないが支援を必要としている子どもに寄り添う支援活動を行う。</p> <p>目的②保護者支援 保護者支援活動を通じ、孤育て（孤独な子育て）に悩んでいる保護者や、発育に戸惑い、成長への不安をお持ちの保護者など、ワンオペ育児に陥りやすい現状がある。また、親自身の両親から理解が得られないことや、子育てと介護のダブルケアをしている方の支援も必要である。気軽に相談ができる場を作ることで、孤独な子育て状況を見出だしやすくし、保護者の孤独感を緩和し、情報提供と共に支援につなぐ橋渡しができる。また育児の悩みを主訴とする相談内容を伺う中から、保護者ご自身にも支援が必要であることに気付くケースもある。きめ細かな困り事の拾い上げに力を注ぎ、保護者個別相談の実施し、支援窓口の紹介など、虐待や生活困窮に陥る前の対策を講じる。</p>
	内容	<p>1、①あそび空間ガジュマル ICT 部門（不登校児、発達障害傾向児対象） PC、タブレット、ゲーム機等にて、あそび学ぶ。 PC、タブレット機器等を一緒に体験し、慣れ親しむことで、子ども達の可能性を見出す（ゲーム、プログラミング等）。外へ出るきっかけ作りや、仲間意識の芽生えなど自己肯定感を得られるような体験の場を提供する。</p> <p>②あそび空間ガジュマル居場所事業部門 子どもと保護者の居場所を提供（毎月 1 回実施） 学童、放課後等デイサービス等、従来型の居場所への参加が難しい子どもや、自分らしく過ごすことのできる場所を探している子どもを対象に居場所の提供を行う。また、併せて保護者の居場所も提供。保護者も一緒に参加されることにより、悩み事や相談、情報提供など、スタッフと子どもが遊ぶ様子を見ながら落ち着いて過ごす時間が持てる。</p> <p>2、おばートーク会・個別相談会（保護者座談会、個別相談会） 子育てに悩みを抱える保護者の為の座談会（偶数月 1 回） 個別相談会（随時）を実施。</p>

	<p>発達障害、及び発達障害傾向にある子どもの保護者を対象に、座談会を通じて、子育ての悩みの共有や子育て支援情報の発信を行う。また、随時個別での相談カウンセリングも実施。個別相談も担当している稲田尚久先生の子育て講演会 2 回実施。</p> <p>3、スタッフの育成</p> <p>中国短期大学准教授の平尾太亮先生を講師にお迎えし、子どもとのかかわり方について具体的なケーススタディを通して学ぶ講習会を、2 回開催。</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所 ICT 部門では、ゲーミングパソコンを活用することにより、パソコンゲームを初めてされたというお子さんも、楽しく快適に、パソコンの操作の仕方を体験することができた。ゲーミングパソコンは高価なため、どこでもできるわけではない。ゲーム機や PC のないご家庭のお子さんに体験の場を提供することができて、体験格差の解消につながる活動になったと自負している。また、2023 年度には助成金で 2 台目のゲーミングパソコンを購入することができた。このことで、マルチプレイが可能になり、子ども達の間で、年下の子ややったことのない子に教えてくれる子が出てきたり、お互いに譲り合ったり、順番を決めてそれを守ってプレイしたりとソーシャルスキルが向上する効果も出てきている。 ・子どもの居場所の活動においては、継続開催をすることにより、毎回楽しみにしてきてくれる常連の参加者の方ができた。未就学から高校生まで、主に地域の親子さんが参加。お子さんが遊ぶ傍らで、保護者の方は悩み事の共有や情報収集、子育て相談などをされていて、子どもの居場所としてだけでなく、大人の居場所としても活用していただくことが出来た。2023 年度は、ミニプレーパークの開催や、かき氷会、金星音読団を招いての演奏会などのイベントを多数行った。ミニプレーパークでは、庭に流しそうめん竹を設置して水やボールを流して遊んだり、焼き芋をふるまったり、落ち葉を使った作品作りなどを行った。また庭にこたつを設置してみたところ、暖を取る保護者同志で話が弾む場面もみられた。音楽会では、時には楽器に近づいたり、ごろごろしたりしながら、一緒に歌ったりとリラックスして演奏や音読を楽しむことができた。 ・おばートーク会は、毎回みなさんの困りごとの変化や成長を感じられ、継続開催の意義を強く感じている。新たに来られた方は、同じようなケースを乗り越えてきた保護者からアドバイスや情報共有してもらっている。常連メンバーは、それぞれの体験を傾聴しまた聞いてもらうことによって会の後にははっきりした気持ちになる、肩の荷が下りた、情報やヒントをもらい参考になる、前向きな気持ちになるなどの感想をアンケートで回答してくださっている。個別相談は、相談員を新たに 1 名増員し、それぞれの専門分野に応じた対応が今までよりもさらに広くできるようになった。
<p>今後の課題と対応策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て支援を行なっている団体である」という認知度もあがり、地域で気になるお子さんの情報(虐待を疑う状況)もお寄せいただくことが増えた。地域の方からの情報をきっかけに、子育てに困り感を持たれている親御さんと繋がることができたケースもあった。繋がった後の対応方法について、体系的な整備を進めることが今後の課題である。 ・講演会では、「子どもとの程よい距離感」について、ワークを交えながら楽しく学ぶことができた。アンケートでも、継続開催を期待するお声を多くいただいた。来年度も開催を計画している。 ・講演会や座談会、居場所への参加をきっかけに、子育て相談の利用に至るケースが多い。様々な出会いの形を用意すると共に、個々の対応へ移行できる手立てを用意しておくことで、よりきめ細やかな寄り添いができることを実感した。今後は、多様なニーズに柔軟に応えられるよう、スタッフのスキルの向上と、多くの協力者(人材)の確保が課題である。 ・多様な子育ての悩みに寄り添う為には、発達特性への理解や、抱えている困難さを的確に把握する力が不可欠。学習会を行ったことで、スタッフ全体のスキルアップができたと共に、個々のスタッフの自信にも繋がった。今後も定期的な開催を目指したい。

	<p>・活動拠点場所の移転に伴い、環境整備に力を入れた1年間であった。更に整備を進め、活動の充実を図りたい。活動継続に必要な固定費用(家賃等)の捻出が、今後の大きな課題である。</p>
写真の提出	

あそび空間がジュマル屋外編



あそび空間がジュマル室内編



あそび空間がジュマルPC編



